

図工・美術研究部テーマ

「ときめき かがやき つくりだす」

～身に付けさせたい力は何か～

「材料や場の設定を工夫し，一人一人の
感性を豊かにする授業展開」



成田市立美郷台小学校 江邨 清楓

2023年8月23日（水）

成田市立大栄みらい学園

1 研究主題

「材料や場の設定を工夫し、一人一人の感性を豊かにする授業展開」

～はことはこをくみあわせて～

2 主題設定の理由

本校は、平成19年に成田市立成田小学校の学区であった郷部地区の一部、押畑地区、山口地区、土屋地区の一部、美郷台一丁目、二丁目、三丁目分離し、新たに学区指定を受け成田市立美郷台小学校として設立された。その後、平成23年4月に成田市立中郷小学校と統合し、商業地と住宅地に加え、豊かな自然にも恵まれ、「美しいふるさとづくり」を実現した学区となっている。「かしこく、やさしく、たくましく」を教育目標とし、目指す児童像の一つとして、「自分で考え、自分で行動できる子」を掲げ、日々の教育実践に取り組んでいる。

本学級は、図画工作科の授業を楽しみにし、表現することを楽しいと感じていたり、想像することの面白さを感じていたりする児童が多い。しかし、自分の作品に自信がもてず、手が止まってしまったり、題材のめあてに沿った活動が出来ずにいたりする児童もいる。また、経験が少なく、はさみやのり等の扱いが苦手な児童もいる。いつも同じ材料を使ったり同じものしかつくりなかつたりする児童もいる。このように、児童が何をつくるか困っている時にこれまでの私は、教科書の参考作品を提示したり教師自身の想像を押しつけたりするようなことをしていた。しかし、それでは児童の想像力を十分に育むことができないと考えようになった。何よりも、学習指導要領の教科目標に、「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」と明記されている。そこで、「出会った材料から自分でつくりたい物を創造し、自分の思いを表現できる児童」の育成をすることが大切だと考え、本主題を設定した。

3 仮説

仮説1

学習活動の中で自分や友達の作品のよさに気付くような工夫を行っていけば、一人一人の感性が磨かれ、表現力が豊かになるだろう。

手立て①タブレットの活用

導入時にタブレットの写真機能を使って自分の活動を記録する。そうすることで、自分が見つけた発想をすぐに振り返ったり、友達のアイデアをいつでも参考にしたりすることができると思った。

手立て②友達と関わりながらの活動

自分の発想を広げるためにグループで活動する。友達と話し合ったり協力したりしながら自由に活動することで、互いにアイデアを吸収して活動できると考えた。

手立て③活動の途中で友達と作品を見せ合う「みてみてタイム！」を行う。

他者の作品を見る場を設けることで、アイデアのよさを見付け、さらに発想が膨らむと考えた。

仮説2

材料や場の設定を工夫すれば、発想が膨らみ生き生きと主体的に活動できるようになるだろう。

手立て①材料と触れ合う時間の設定

体全体を使ってその特性に気付かせるために、材料に触れたりよく観察させたりする。授業時間だけでなく、休み時間にも設ける。友達と話し合うことで、自分の見方や考え方を広げることができると考えた。

手立て②自ら選択したいろいろな色や形、大きさの材料を扱う

材料の特性を生かして活動ができるよう、いろいろな色や形、大きさの材料を用意する。また、特性の違いに着目して集めるよう声掛けをする。実際に触れ、材料の特性に気付き、色々な材料を児童自身で選択することで意欲が高まると考えた。

手立て③広い教室で行う

ダイナミックな活動ができるように、表現と鑑賞の一体化を目指せるよう、広い場を用意する。

4 研究の実践

実践例1

(1) 題材名 「はこと はこを くみあわせて」

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容を受けて設定した。

A 表現

(1) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。

(2) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

(1) ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

[共通事項]

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

本題材では、自分の感覚や行為を通して身近な材料である紙箱の特性を見付け、紙箱の重ね方やつなげ方を試したり、見付けたりしていくことで自分の思いを表現することをねらいとしている。

児童は今までにブロック遊びや積み木などで、何かを並べたり、積んだりする経験がある。また、紙箱は児童にとって身近な材料であり、生活の中でも触れたことがある。この題材を通して紙箱にはいろいろな重ね方やつなげ方があることに気付かせると共に、自分の思いを深め自信をもって表現できるようにしていく。

(3) 児童の実態 (男子 13名 女子 16名 計29名)

<紙箱を扱った経験についての実態調査、意識調査>

① 紙箱に色を塗ったり絵を描いたり、工作をしたことがあるか。

ある・・・24名

ない・・・5名

② 紙箱を使って何をしたことがあるか。

○絵を描く

・花 ・にじ ・乗り物 ・洋服 ・食べ物 ・動物 ・自分や友達の顔

○工作

・動物 ・花 ・乗り物 ・家 ・剣 ・盾 ・釣り竿 ・ゲーム機
・家電

③ 紙箱を重ねたり、つなげたりして何がしたいか。

・動物 ・恐竜 ・乗り物 ・タワー ・りぼん ・宇宙 ・ブロック ・柵
・ゲーム機 ・ロボット ・双眼鏡 ・町 ・UFO

④ 図工の学習は好きですか。

好き・・・24名

どちらかといえば好き・・・5名

・つくることが好きだから

・つくりたい物が浮かばないから

・面白いから

・何をつくれればいいのかわからないから

・楽しいから

・作品を発表する時にうまく言えないから

・色々な物をつくれるから

・「上手だね」と褒められるから

・友達とつくることが好きだから

・友達の作品が面白いから

どちらかといえば嫌い・・・0名

嫌い・・・0名

事前の実態調査①②から、多くの児童が小学校入学以前に紙箱に絵を描いた経験や工作をした経験があることが分かった。児童にとって紙箱は簡単に手に入る身近な材料であり、立体から様々な発想がしやすい親しみのある材料であると考えられる。質問③では、紙箱を重ねたりつなげたりすることで、何かに見立てて形をつくったり、ごっこ遊びのようにして遊びたいという意見が出た。質問④では、図工の学習を好む児童が多い反面、つくりたい物を決めることや自分の作品のよさを伝えることについて、苦手意識を持つ児童がいることが分かった。

(4) 題材の目標

- ・いろいろな紙箱を組み合わせることを通して、紙箱の形や色の面白さに気付くことができる。
(知識及び技能)
- ・紙箱の組み合わせ方や飾り付け、接着の方法など、表したいことをもとに工夫して表すことができる。
(知識及び技能)
- ・紙箱の形や色などをもとにつくりたいものを思い付き、どのように表すかを考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・紙箱を組み合わせることでいろいろな形ができることに関心をもち、楽しく取り組むことができる。
(学びに向かう力、人間性等)

[共通事項との関連]

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

(5) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① いろいろな紙箱を組み合わせることを通して、紙箱の形や色の面白さに気付いている。 ② 紙箱の組み合わせ方や飾り付け、接着の方法など、表したいことをもとに工夫している。	① 紙箱の形や色などをもとにつくりたいものを思い付き、どのように表すかを考えている。	① 紙箱を組み合わせることでいろいろな形ができることに関心をもち、楽しく取り組もうとしている。

(6) 指導と評価の計画 (4時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	手立て
	事前	○箱集めをする。	・形や大きさ、色に着目させる。	仮説2手立て②
	事前	○『箱ランド』で休み時間を使って紙箱に触れる。	・何をつくりたいかの意欲を喚起する。	仮説2手立て①

※展示する場所を製作場所の隣の教室に準備し、自由に行き来できるようにする。展示する場所には網を掛けたり天井から紐をぶら下げたりして作品を吊せる場を設け、空間を活かした作品をつくらうという意欲を掻き立てる。



	事前	○算数科の「かたちあそび」で箱の特徴を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形の面白さに気付いている。 ・つくりたい物のどこに使うかを考えるきっかけとする。 	仮説2手立て①
	事前	○接着剤の使い方を知る。 ○はさみの使い方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい接着剤の使い方を理解させる。 ・はさみの使い方を練習させる。 	
一	1	○材料と触れ合い、特性を見付ける。 ○紙箱を並べたり、重ねたり、つなげたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの紙箱や材料を置いて活動できるように広い教室で行う。 ・紙箱の形や大きさの特性に気付くように声掛けをする。 ・グループでいろいろな形を紹介し合うように声掛けをする。 ・実際に並べたり、重ねたり、つなげたりして、どんなものに変身するか試させる。 ・試した物をタブレットで写真を撮り記録させ、見返すことができるように声掛けをする。 ・児童が紙箱の組み合わせ方で工夫しているものを写真に撮り、テレビに映して紹介する。 ・思い付かない児童には、グループ内でアイデアを出し合うように声掛けをする。 	<p>仮説2手立て③</p> <p>仮説1手立て②</p> <p>仮説1手立て①</p>
二	2	○どこまで紙箱の形を崩してよいのかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な紙箱と紙箱のつけ方を紹介する。 	

三	3 (本時)	<p>○表したい形に合わせて、紙箱のつなぎ方や組み合わせ方、接着の仕方を工夫して活動する。</p> <p>○『みてみてタイム』で友達とつくっているものを見せ合い、もっとつくりたいものを想起する。</p> <p>○友達と作品を紹介し合う。</p>	<p>・必要に応じて、筒の先を切って広げるつけ方を紹介する。</p> <p>・自由に使える材料の説明をする。</p> <p>・紙箱のつけ方や使い方を工夫している児童を紹介し、全体で共有する。</p>	仮説1手立て③
四	4	<p>○友達と作品を鑑賞し合う。</p> <p>○活動を振り返る。</p>	<p>・自分の作品について「作品名」「紙箱のつけ方ががんばったところ」など項目をしぼって話すように声掛けをする。自分の作品をタブレットで撮って記録しておく。</p>	仮説1手立て①

(7) 本時の指導


○目標

- ・紙箱の組み合わせ方や飾り付け、接着の方法など、表したいことをもとに工夫して表すことができる。

(知識及び技能)

○展開 (2・3/4時間展開)

時配	学習内容・支援	児童の様子
10	<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙箱と紙箱の重ね方やつなげ方を振り返る。 ・はさみの使い方と接着の仕方について指導する。 ・タブレットで取った写真を見せ、児童の発想を振り返らせる。 ・安全な道具の扱い方について確認をする。 ・紙箱の形や大きさ、組み合わせ方によって、接着の仕方が異なることを伝える。 ・自分の思いに合った接着の仕方を選んで活動できるように、写真やイラストなどの資料や見本を掲示する。 	<p>T「紙箱と紙箱を組み合わせると何ができるかな。」</p> <p>C「キリンにしようかな。」</p> <p>C「恐竜にしようかな」</p> <p>C「タワーにしようかな」</p> <p>C「UFOにしようかな」</p> <p>T「紙箱に筒をつけると、何に見えるかな。」</p> <p>C「足に見えるよ。」</p> <p>C「ゲーム機のコントローラーみたいになったよ。」</p> <p>T「○○さんは筒を使ってしっぽをつくったんだね。」</p>

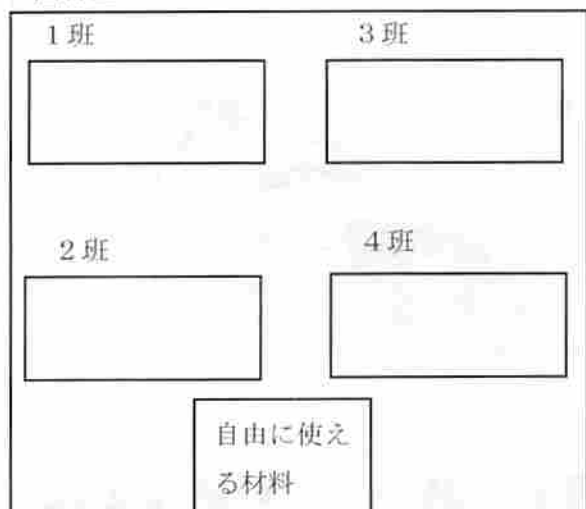
	<p>〈紙箱と紙箱をつけるときは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接着剤でつける。 ・粘着テープを輪にしてつける。 ・両面テープでつける。 ・ビニールテープでつける。 ・筒の先を切って広げるつけ方を紹介する。 	<p>C「横につけると手にもなるよ。」</p> <p>T「紙箱にペンで耳や目をかいてみよう。」</p>
5	<p>2 学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はこをかさねたり、つなげたりしよう。</p> </div>	<p>C「こことここをくっつけて足をつくろう」</p> <p>C「筒状の物は、筒の先を切って広げてボン ドでくっけるとしっかりくっつくんだ な。」</p>
25	<p>3 活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙箱の組み合わせ方や飾り付け、接着の方法など、表したいことをもとに工夫してつくる。 (仮説1) ・4人程度で机を向かい合わせにし、友達と共 のびのびと活動したりできるように教室の机 や椅子を配置する。  <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアが思い浮かばない児童には、グループ で話し合っ てよいことを知らせる。また、必要 に応じて自由に使える材料から思いに合う形 や色、大きさの材料を一緒に探したり、接着の 仕方を考えたりする。 ・友達の重ね方や、つなげ方の工夫に気付けるよ うに声掛けをする。 ・紙箱の重ね方やつけ方を工夫している児童を紹 介し、全体で共有する。 	<p>C「トイレットペーパーの芯はしっぽになり そうだな」</p> <p>C「大きくて平たい箱は動物の体になりそう」</p> <p>C「お菓子の箱のふたを広げると、テレ ビみたいになったよ」</p> <p>C「はこはこはどんな風にしたらしっかり くっつくのかな」</p> <p>C「何をつくろうかな...」</p> <p>C「〇〇君がロケットをつくっているから僕 もつくってみよう」</p> <p>C「ロボットに紐をつけて箱ランドでぶらさ げようかな」</p>

<p>1 5</p>	<p>(仮説1)</p> <p>4 友達と作品を見せ合う。「みてみてタイム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさを見付ける。 ・教師がどのように伝えるかの見本を見せ、伝え合いがスムーズに行えるようにする。 ・作品の題名と工夫したところを伝え合い、次時に繋げていく。 ・形や色などの箱の特徴を生かしたり、接着の仕方に工夫が見られたりする作品を紹介する。 ・紙箱や自由に使える材料で、まだ使えそうな物はもとの場所に戻すように伝える。 ・つくった作品は丁寧に扱うように声掛けをする。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>アイデアのよさを見付け、発想が膨らむ活動。</p> </div> <p>T「お友達の作品を見て回って、すごいところや真似してみたいところを見付けてみよう」</p> <p>C「〇〇ちゃんの作品すごい！」</p> <p>C「ボンドだけじゃなくて、テープを輪にしてくっつけることもできるんだ！」</p> <p>C「ロボットの手の先に箱を切ってつくった爪が貼ってあったよ。」</p> <p>T「口はどんな風につくればいいのかな。」</p> <p>C「〇〇さんがつくっているよ。真似してみよう。」</p>
<p>2 5</p>	<p>5 活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のアイデアを取り込みながら、続きを行う。 ・もっとつくりたい物を思い付くようにする。 ・いろいろな作品が見られるように、時間を決めて自由に動かす。 ・見せ合うことで、友達の作品のよさを見付けたり、自分の作品づくりのよさに生かしたりできるようにする。 ・友達の作品を見て、よいと思ったところを進んで取り入れるよう声掛けをする。 <p>○紙箱の組み合わせ方や飾り付け、接着の方法など、表したいことをもとに工夫している。</p> <p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に使える材料が必要そうな児童に声掛けをする。 	<p>C「目はボタンをつけてみようかな。」</p> <p>C「UFOにモールを付けて窓をつくってみようかな。」</p>
<p>5</p>	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで作品を紹介し合う。 ・作品を数人紹介する。 	
<p>5</p>	<p>7 片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を丁寧に「箱ランド」に運んだり、使った物をもとの場所に戻したりする。 	

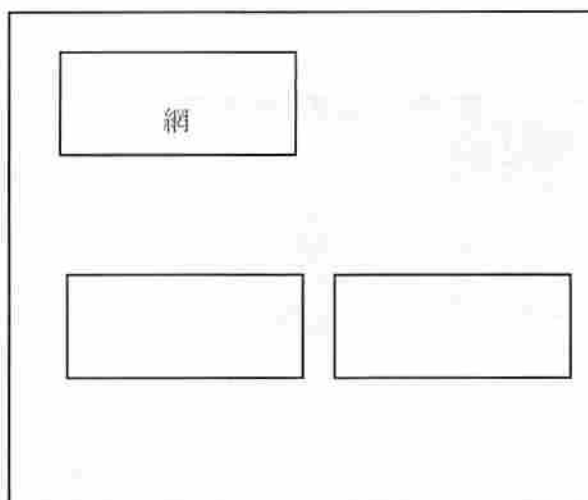
(場の設定)

配置図

図書室



パソコン室 (箱ランド)



(仮説2)

* 『箱ランド』で活動し、再度作品に対する思いや考えを深め、製作に戻り始めた児童たち。
箱ランドと製作の場を行き来することで、作品に対する愛着が高まっていく様子が見られた。



○床や机の上で車を走らせたり、網に作品を吊り下げてロボットや宇宙船で遊んだりする児童がいた。



「たくさん並べて道路ができたよ。」
「高速道路をつくって走らせよう」



「ロケットをぶら下げて宇宙をつくろう」
「宇宙人もつくろうかな」

児童の様子

児童 A 自分の思いを工夫して表している子

休み時間に『箱ランド』で遊ぶ様子



高速道路をつくろうかな。

授業の様子



吊るしてみるのもためしてみようかな。

『箱ランド』で遊びながら製作している様子



高速道路

作品例 日頃から自分の思いを表すことができる。



キリン



お手伝いロボ



ボート

○児童B 自分の思いを表現しようとするが、自信が無いため手が止まってしまうことがある。



『みてみてタイム』から…



「ロボットの手は何でつくったらいいんだろう・・・」

「〇〇さんが細長い箱でつくっていたから僕も真似してみよう！」

○児童C なかなかつくりたい物が見つからない児童



※何をつくろうか悩み、周りをきょろきょろして見ている。

教師が声を掛けると、材料を出し始め、積んだり重ねたりし始めた。



児童 A・Bの様子を見て・・・

箱と箱を両面テープでくっつけようと思い、取りに行く様子。



「足をつくろう!!!」



児童 A・Bの様子を見て・・・

「ヤクルトの容器で何かつくれないかな？」

実践例2

(1) 題材名 「あそぼうよ、パクパクさん」

仮説1の「学習活動の中で自分や友達によさに気付くような工夫を行っていけば、一人一人の感性が磨かれ、表現力が豊かになるだろう」をより検証するために、『あそぼうよ、パクパクさん』という題材を実践した。

(2) 仮説との関わり

(仮説1)

手立て②友達と関わりながら活動

自分の発想を広げるためにグループで活動する。話し合ったり協力したりしながら自由に活動することで、互いにアイデアを吸収して活動できると考えた。

手立て③活動の途中で、友達と作品を見せ合う「みてみてタイム！」を行う。

他者の作品を見る場を設けることで、アイデアのよさを見付け、さらに発想が膨らむと考えた。


(仮説2)

手立て①材料と触れ合う時間の設定

動くおもちゃの仕組みを見付け、どんな物ができるかイメージをもつために、友達と話し合いながら遊ぶ時間を設けた。友達と話し合うことで、自分の見方や考え方を広げることができると考えた。

(3) ○展開 (1・2/2時間展開)

時配	学習内容・支援	児童の様子
7	1 動くおもちゃの仕組みを知る。 (仮説2手立て①) ・教師が動くおもちゃの見本を見せ、興味を引き立てる。	T「今日はこんな物をつくるよ」 「まずは、この形をつくってみよう」
15	2 動くおもちゃと遊ぶ。 (仮説2手立て①) ・自分で動くおもちゃをつくり、実際に遊ばせ、どんな物ができるか想像を膨らませる。	T「お友達と遊んでみよう」 C「パクパク動いて楽しいね」 C「パクパクするところが何かの口に見えてきた」 C「ワニやカバをつくってみたいな」
3	3 学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分だけのパクパクさんをつくろう。</div>	T「どんな物ができるかな？自分だけのパクパクさんをつくろう。」

20	<p>4 制作活動 (仮説1手立て②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアが思い浮かばない児童には、隣の席同士で話し合ってよいことを知らせる。必要に応じて自由に使える材料から思いに合う画用紙の色を探したり、切り方や、絵の描き方を一緒に考えたりする。 ・友達の重ね方や、つなげ方の工夫に気付けるように声掛けをする。 ・パクパクする部分の使い方や画用紙の活用の仕方を工夫している児童を紹介する。 ・友達の作品を見て、より豊かな発想が生まれるように、作りながら遊んでもよいことを伝える。 	<p>C「目や耳、体や手足もつけたいな」 T「色を塗ったり、模様をかいたりしてもいいよ」 C「くじらをつくりたいな」 C「ワニをつくりたいな」 C「パクパクするところは顔にして、体を画用紙でつくってくっつけたいな」 C「私はうさぎさんのごはんもつくってあげたよ」 T「○○さんはくまさんにお買い物かごを持たせてあげたんだね」 T「作りながら遊んで、お友達のいいところを見付けたり、自分の作品を紹介したりしてみよう」</p>
13	<p>5 友達と作品を見せ合う。『みてみてタイム!』 (仮説1手立て③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさを見付ける。 ・教師がどのように伝えるかの見本を見せ、伝え合いがスムーズに行えるようにする。 ・作品の題名と工夫したところを伝え合い、次の活動に繋げていく。 ・色の組み合わせの工夫や豊かな発想が表現されている作品を紹介する。 	
20	<p>6 活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見せ合うことで、友達の作品のよさを見付けたり、自分の作品づくりのよさに生かしたりできるようにする。 ・友達の作品のアイデアを取り込みながら、製作活動の続きを行う。 ・友達の作品を見て、よいと思ったところを進んで取り入れるよう声掛けをする。 	<p>C「食べちゃうぞ」 C「ガブガブ」</p> 

	<p data-bbox="405 230 826 495">こんにちは、私ねこです！お魚買いに行くの！</p>  <p data-bbox="405 860 826 1039">机の下からガオー！</p>	<p data-bbox="890 194 1465 284">T「自分だけのバクバクさんを、遊びながら紹介しよう」</p>  <p data-bbox="890 591 1398 770">恐竜君の歯磨きタイムだ！ゴシゴシ！</p> 
7	<p data-bbox="252 1106 865 1196">7 作品を紹介し合う。 ・「題名」「工夫したところ」を友達に伝える。</p>	
5	<p data-bbox="252 1249 865 1339">8 片付けをする。 ・作品を丁寧に運んだり、使った物をもとの場所に戻したりする。</p>	

表現力が豊かになった事例...

- ・導入で教師がつくった動くおもちゃ見本を見せることで、子供達の興味が高まり、意欲付けとなった。また、実際に装飾を付ける前の動くおもちゃで遊ばせることで、何をつくれるかのイメージを膨らませることができた。
- ・友達と協力したり、話し合いながら自由に活動したりすることで、互いにアイデアを吸収しながら活動することができ、自分の作品をよりよいものにしようという思いが強くなった。
- ・つくった作品を友達と一緒に遊ぶことにより、自分の作品に対するイメージが広がった。自分には思い付かなかったような発想ができた。そして一人一人の感性が磨かれる機会とすることができた。

5. 成果と課題

成果

- ・材料と触れ合う時間（休み時間にも）を多く設けることで、自分の考えや見方を広げることができた。
- ・グループ活動や「みてみてタイム！」により友達のアイディアを参考にすることができた。友達作品のよさに気付くことができた。
- ・遊ぶ場や製作の場の工夫により、行き来しながら発想を膨らませることができた。
- ・接着の仕方を事前に練習したり、いくつかの方法を確かめたりしたことで、自分に合った接着方法を見付け、作品に活かすことができた。

課題

- ・タブレットの活用については、児童の一人一人の活動の記録としては有効的だった。しかし、発達の段階においてタブレットを取り入れての活動については今後更に追求していく必要がある。